

7月30日に分科会を実施

学術会議報告

日本学術会議
物理学委員会
天文学・宇宙物理学分科会

学術会議マスタープラン及び 文科省ロードマップ

- 文科省ロードマップ
 - 文科省・科学技術・学術審議会・学術分科会・研究環境基盤部会・学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会（主査・海部宣男）が、「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想 ロードマップの策定 -ロードマップ2014-」を8月26日に発表した。
 - 学術会議マスタープランの重点大型計画27件のうちから、ヒアリング、パブリックコメントを経て、10計画が選ばれた
 - 天文系では、LiteBIRD, SPICA
- 関連活動
 - 日本学術会議、学術の大型研究計画検討分科会「第22期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン2014）」（2月28日）
 - 天文系では、DIOS, CTA, JEM-EUSO, SKA, SOLAR-C, LiteBIRD, SPICA, 南極望遠鏡計画（下線が重点大型計画）
 - 日本学術会議、天文学・宇宙物理学分科会「天文学・宇宙物理学中規模計画の展望」（学術会議記録として準備中）
- 分科会としては、大型計画のフォローアップを実施。7月30日の分科会で、太陽分野の展望について、ヒアリングを行なった。

次期（23期）への引き継ぎ事項

- 天文教育の質保証
 - 第三部全体の活動。天文学は、物理学委員会の一部としてまとめられる予定。
 - 日本天文学会と連携し、ワーキンググループを組織した。メンバーは、山岡（委員長）、櫻井、芝井、奥村、縣、福島、大朝、岡村（敬称略）。
- 大型計画・大規模計画のフォローアップ
 - マスタープランは3年ごとに見直し。分科会もそれに合わせて見直していく。
- 中規模計画の継続的評価・フォローアップ
- 新分野創成の検討
 - 学際領域で、新分野創成の検討を行なう
- 大学院生・若手研究者の教育・育成について
- 社会との関わり

会員・連携会員の改選

- 会員・連携会員の任期は6年。全体では3年ごとに半数改選。
- 分科会では、連携会員のうち7名が改選となる。2名の会員（観山、須藤）は非改選で、そのまま残る予定。
- 女性については、学術会議全体で30%が目標。最低20%（4名）に近づける努力は必要。次の改選では、天文分野の2名のうち、1名は女性でなければ、削減される可能性が高い
- 連携会員については、本人に発令の通知がいつているところで、10月の総会までは、誰が最終的に選ばれたかはわからない。